



北海道子ども読書応援団ニュース

ゆめ＊よみ

北海道教育庁生涯学習推進局

社会教育課地学協働推進係

TEL : 011-204-5744

FAX : 011-232-2236

「絵本ワンポイントアドバイス」

道教委は、乳幼児期における読み聞かせが、学ぶ力の基礎をはぐくむ重要な活動であることから、保護者や道内の幼児教育施設職員の読み聞かせ等の取組を支援しています。

「絵本ワンポイントアドバイス」は、保護者が乳幼児期の子どもの絵本を読むときのポイントや子どもに読み聞かせしたいお薦め絵本を動画で紹介しています。

テーマは、ほかにも「子どもが眠る前のひとときにおすすめの絵本」や「食べ物好き嫌いのあるお子さんにおすすめの絵本」、「小さなお子さんへ絵本を読んであげるときのワンポイントアドバイス」など随時追加していますので、ぜひ、「北海道教育委員会Twitter」を開いて、「#絵本ワンポイントアドバイス」で検索してください。

絵本ワンポイントアドバイス
その①

読み聞かせは
「こころ」と「ことば」
をそだてます



北海道立図書館
北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課
北海道教育庁幼児教育推進局幼児教育推進センター

【「絵本ワンポイントアドバイス」の動画】

【「北海道教育委員会
Twitter」のQRコード】

各地の子ども読書応援団の取組紹介

「月形町で育つ子どもたちの心に栄養と嬉しい時間を与えたい」 おはなしじゃんけんぽん（月形町）

月形町の読み聞かせサークル「おはなしじゃんけんぽん」は、平成6年の設立以来、現在は会員4名で図書館や町内の小学校での読み聞かせを通して、子どもたちが読書に親しむ場の提供に努めています。

月1回図書館で行われている「おはなし会」は、絵本の読み聞かせだけでなく、手遊びやパネルシアター、手作りの大型紙芝居、ハーモニカやマジックなど様々な方法で、小さい子も最後まで楽しめるような企画を考えています。プログラムの内容は、季節や園・学校行事に合わせ、みんなが共感できるよう工夫します。

その長きにわたる活動が認められ、平成20年には、優良読書グループ北海道表彰・北海道地域活動振興協会理事長賞を、平成21年には、空知管内教育実践表彰と月形町教育委員会表彰を受賞しました。

代表の木須さんは「メンバーが増えないことが課題となっていますが、様々な大人が一度でもいいので、我が町の子どもたちのために絵本を読むという空間を作り、この町で育つ子どもたちの心に、栄養と嬉しい時間を与えていきたい。それが達成できたらなんて素敵だろう。」と思いながら活動を行っています。



【「おはなし会」の様子】



【読み聞かせの様子】

「こんな今だからこそ、子どもたちと絵本でつながりたい」 日高わらべの会（日高町日高地区）

■1988年、子育て世代の母親4人でスタート

「以前は、他地域の読み聞かせ団体と交流もしていたんですよ。」と語るのは、事務局を務める高橋貴子さん。地元の小学校での読み聞かせだけでなく、保育所や学童保育、子育て支援センターに出向いたり、講師を呼んで自主事業を企画したりするなど、精力的に活動してきました。現在、会員は6名となり、依頼があればすぐ出向けるよう準備はできています。

■感じてほしい、紙媒体の素晴らしさ

電子媒体も増えつつあるが、「子どもたちには、多くの本を手にとって、広げてほしい。」と力を込めます。小学校の学校図書館では、絵本を手に取りたくなる手書きのPOPが、子どもたちを誘います。「子どもたちに、少しでも絵本の楽しさや面白さを」という気持ちで。

■読み聞かせは、子どもだけでなく

高齢者に昔話や紙芝居などを読んだとき、とても喜んでもらえました。これが絵本の力だと、実感しています。

「少子化の中、読み聞かせの場は子ども以外にもまだまだあります。時代に合わせて、新しい活動の場は自分たちでつくればいいんです。」最後にそう力強く語りました。



【町立図書館での「おはなし会」】



【小学校図書館の絵本紹介 POP】

「ひろげよう！大志をはぐくむ読書の樹」 北広島市フィールドネット運営委員会（読書まつり実行委員会）（北広島市）

北広島市フィールドネット（Fネット）は、北広島市図書館を拠点として活動するボランティアグループのネットワークです。1998年に図書館開館と同時に誕生し、23年が経ちました。

Fネットには、おはなしの会、絵本の翻訳、本の修理、福祉ボランティアの朗読サークルなどが所属しており、8団体で100名を超える方が図書館で活動しています。

Fネット運営委員会では、市からの交付金を受け、市民のための様々な読書活動を行っています。なかでも毎年秋に行われている「読書まつり」は図書館が開館する前の中央公民館での開催から続いており、10月13日（水）～17日（日）まで「詩の世界」をテーマに第42回読書まつりが開催されました。展示では、市民から募集したオリジナルの詩の作品やボランティア団体の紹介、児童コーナーには、昨年に引き続き、葉っぱのお金を入れるとボランティアに読み聞かせをしてもらえ「よみきかせかん」が出てくる「おはなしのじどうはんばいき」が設置され、子どもたちに大変好評でした。

コロナ禍において、図書館の臨時休館などもあり、読書活動も制限されてきましたが、生活のなかで、いつでも本の楽しさや魅力を伝えていけるよう活動が続くことを願っています。



【市民から募集したオリジナルの詩の作品やボランティア団体紹介の展示】



【おはなしの自動販売機の設置】

「本を楽しむことができる力をつけるためのお手伝いをしたい」 E本よもう！どらねこ倶楽部（池田町）

「E本よもう！どらねこ倶楽部」は、町内の絵本・児童文学が好きな仲間が集まり、平成13年に設立されました。現在は10名の部員が登録しています。主な活動として、地域の保育園、小学校、子どもセンター、高齢者施設に出向いての読み聞かせ、「図書館こどもまつり」や「ブックスタートボランティア」への協力を行っています。「無理なく、できる時に、できる人が活動する」という方針の下、長年にわたり活動を継続しています。平成30年度にはその功績により、「優良読書グループ全国表彰」を受賞しています。

団体名にある「E本」の「E」には、Easy（気軽に）、Enjoy（本を楽しむ）という意味が込められています。

保育園では絵本や紙芝居の読み聞かせをとおして、子どもたちが笑顔になる場面がたくさんあり、豊かな絵本の世界を子どもたちと部員と一緒に楽しみながら活動しています。

池田町では令和4年度、町内に3校ある小学校が1校に統合されます。1校となる小学校の学校図書館が、子どもたちにとって魅力のある場所となるために、何かできないだろうかと部員同士で模索をしています。

代表の杉山さんは、「これからも読み聞かせをとおして、子どもたちが本と親しむきっかけを作り、本を楽しむことができる力をつけるためのお手伝いをしていきたい」と抱負を話していました。



【保育園での読み聞かせの様子】

「絵本でまちづくり～読み聞かせでつながる地域に～」 おはなし会 芽ぶっく（剣淵町）

「おはなし会 芽ぶっく」は、代表の小柳美和さんが、平成20年に小学校での読み聞かせの活動に加わったことをきっかけに、読み聞かせ技術を高めるため、自ら設立した読み聞かせサークルです。平成23年4月に設立され、10年を迎えました。

現在は、女性5名が会員登録しており、乳幼児から大人まで幅広い世代の方に向け、対象に合わせた選書を行い、保育所や学校、高齢者施設などにおいて活動しています。

読み聞かせのほかにも、町内の小学校や中学校、高校などの学校では、授業にも関わっています。小学校と中学校では、国語の授業でブックトークを行っており、高校では、「絵本・紙芝居講座」の講師を務めています。

小学校では、国語の授業のほか、朝読書や休み時間での読み聞かせも行っており、読み聞かせで読んだ本のリストを卒業生に贈るなど、読書習慣を身に付けるきっかけにつながる取組を代表の小柳さん自身が楽しみながら行っています。

小柳さんは、「コロナ禍で、活動は縮小していますが、『ピンチをチャンスに』の発想で、絵本講師やレクリエーション介護士の資格取得等の勉強をして、楽しんで活動再開に向けて準備していきます。」と、今後の活動に向けて抱負を話していました。



【「ブックトーク」の様子】

「読書で子どもの笑顔を見たいから」

茶内小学校読み聞かせボランティア（浜中町）

茶内小学校の「読み聞かせボランティア」は、同じ地域に住む子どもたちに読み聞かせをしたいという思いから、平成30年度から活動をスタートさせ、現在は5名で行っています。

毎週水曜日の朝の読み聞かせは、昨年度までは1年生～3年生を対象にそれぞれの教室で実施していましたが、今年度からはさらに4年生～6年生に対しても実施しています。

読み聞かせを終えると、オープンスペースにある学校図書館に移動し蔵書整理をしています。この時間は、蔵書整理のほかに、その日の子どもの様子や、読み聞かせのときの子どもたちの反応をボランティア同士で交流し、次の読み聞かせの本を選書しています。

また、昨年度は、「読み聞かせイベント」を企画し、11月に1回目を開催しました。2階から見学する子どももいるほど盛況で、12月に2回目を開催しました。

ボランティアのメンバーは、「これからも、読み聞かせを終えたときに子どもたちがにっこりする姿を見ることができるよう、学校での読書活動に協力していきたい。」と話していました。



【「読み聞かせイベント」の様子】

「生涯をとおして読書を楽しんでくれることを願って」

このゆびと一まれ♪（中頓別町）

中頓別町の読み聞かせボランティアサークル「このゆびと一まれ♪」は、町教委主催の「読み聞かせ・ブックスタート事業」にボランティアとして携わっているメンバーが中心となり、平成22年5月に発足しました。

「子どもたちに読書の楽しさを知ってもらいたい。」という発足当時の願いを引継ぎ、現在は、7名の子育て中の母親が所属しています。

主な活動として、年間4回の乳幼児検診時に親子の絆を深めることを目的に「絵本の読み聞かせ」、「絵本のプレゼント」を行っています。また、町の図書室と連携を図り、毎週木曜日に中頓別小学校で低学年を対象にした読み聞かせ会を行い、月毎に学校図書館の整理整頓や各学級文庫の入れ替え作業にも取り組んでいます。

毎年、子ども園のお別れ会では、「小学校でもたくさんのお本と出会ってね。」という願いを込めた手作りのメダルをプレゼントするなど、中頓別町の子どもたちや保護者にとって欠かすことのできない存在となっています。



【中頓別小学校での様子】



【乳幼児検診での様子】